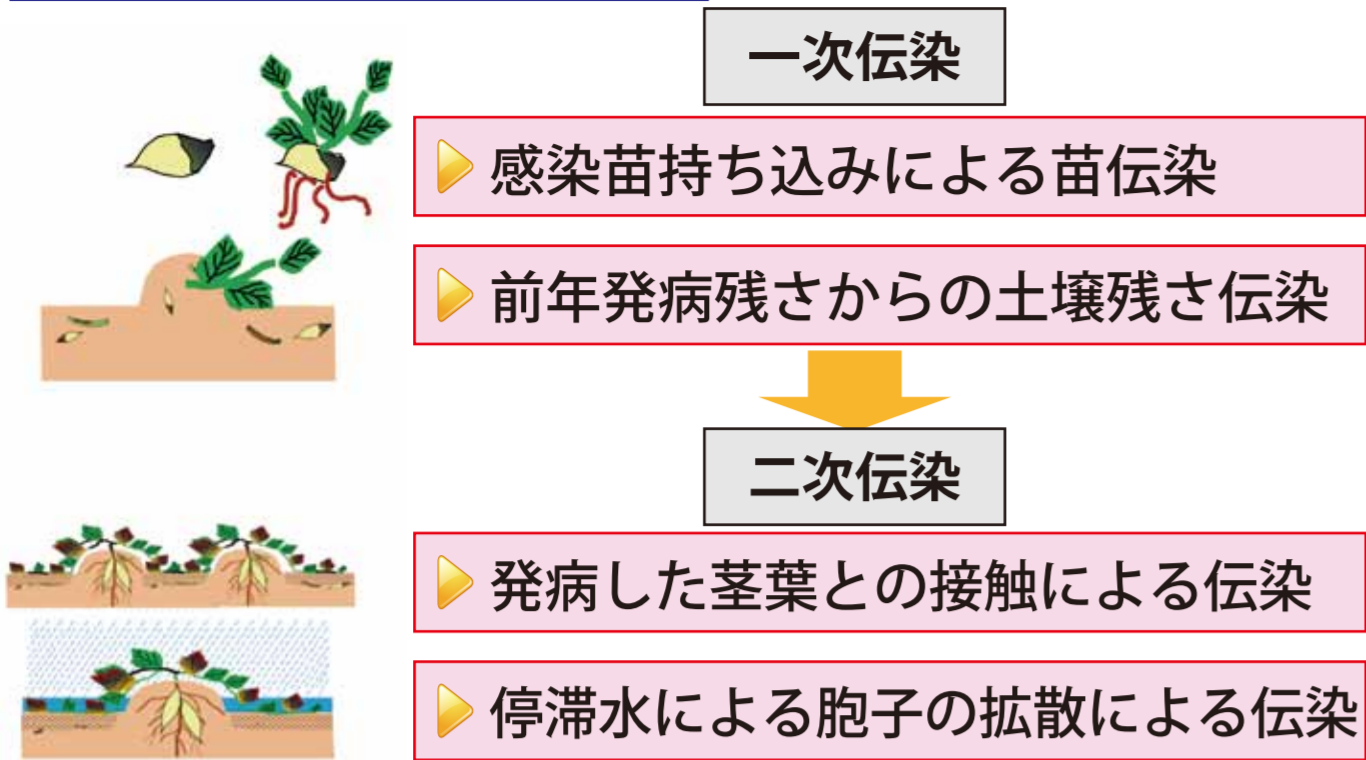


# サツマイモ基腐病防除対策

令和2年12月  
鹿児島県南薩地域農政推進協議会

## <伝染環と防除対策>



**被害の拡大・まん延**

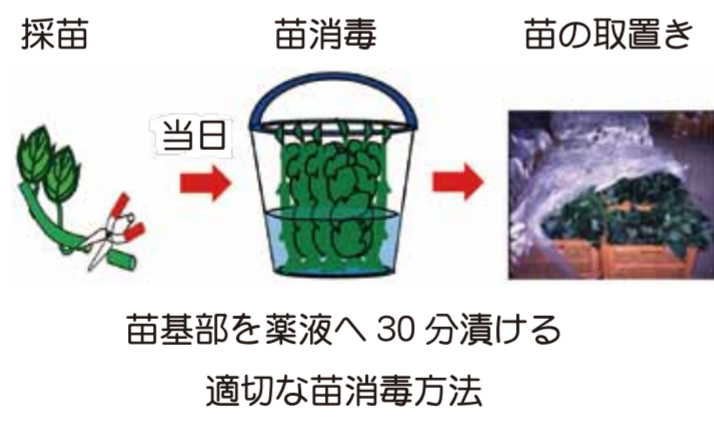


## <ほ場に病害を入れない>

- 健全種いもの確保・選別・消毒**
  - 種いもは、必ず健全ほ場から健全な種いものみを確保する。
  - 病害や傷の見られる種いもは、伏せ込む前に必ず取り除き、黒斑病防除として、トップジンM水和剤で消毒する。
- 健全な育苗ほ場の確保**
  - 育苗終了後は、さつまいもの残さを持ち出し、耕うんを徹底する。殺菌効果のある薬剤で必ず土壌消毒を行う。
- 育苗中の発病種いもの除去**
  - 育苗中に発病した株及び萌芽の悪い株は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

## 4 採苗方法と苗消毒

- 苗は、地面から5cm程度離れた位置で採苗し、感染リスクを下げる。
- 苗消毒は必ず採苗当日に行い、消毒液は毎回当日に調整する。

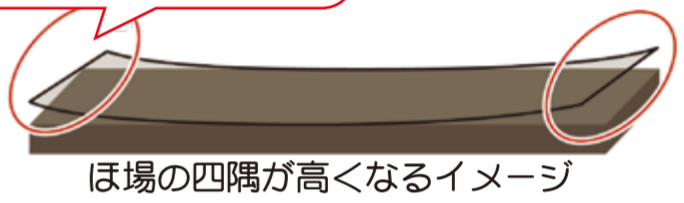


## <ほ場で被害を広げない>

- 排水対策**
  - 排水路は、土砂等の除去を行い排水性を確保する。
  - ほ場を均平後、額縁明きよや枕畝途中を切るなど排水溝を設置し、必ず排水路へ接続する（雨天時にほ場の排水状況を必ず確認し、改善する）。
  - ほ場が周囲より低く、ほ場外に排水できない場合は、プラソイラー等による耕盤破碎を徹底し、表面水の地下への浸透を促す。



- ほ場の四隅が高くならないよう、2～3年を目安に枕地整地を行う。  
トラクタが旋回する枕地の内側が凹みやすく湯水し易くなる！  
ホイールローダ等による均平化

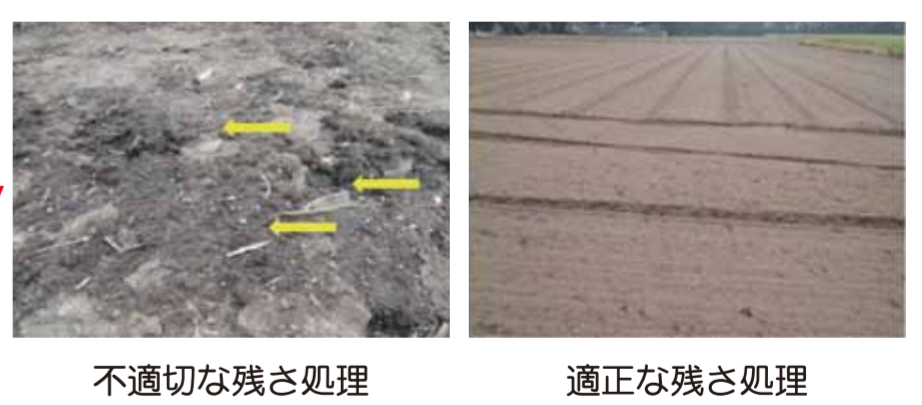


- 生育初期の発病株除去**
  - ほ場の見まわりを行い、伝染源となる初期の発病株（一次伝染株）は早急に抜き取り、ほ場外へ持ち出す。
  - 茎葉が畝間を覆う時期までの発病株は見つけやすく、持ち出しやすい。
- 薬剤による防除**
  - 本病は、発病株から急激に感染が広がり甚大な被害となるため、発病株を除去後、薬剤を複数回散布することで効果的な防除が期待できる。
  - 防除薬剤のZボルドーとジーファイン水和剤は、発病株への治療効果は無いため、発生初期からの予防散布に心がける。

- 作型選択による軽減（早掘）**
  - 早掘り作型を取り入れ、発病前に収穫する。収穫後に下記の残さを残さない対策を実施する。

## <残さを残さない>

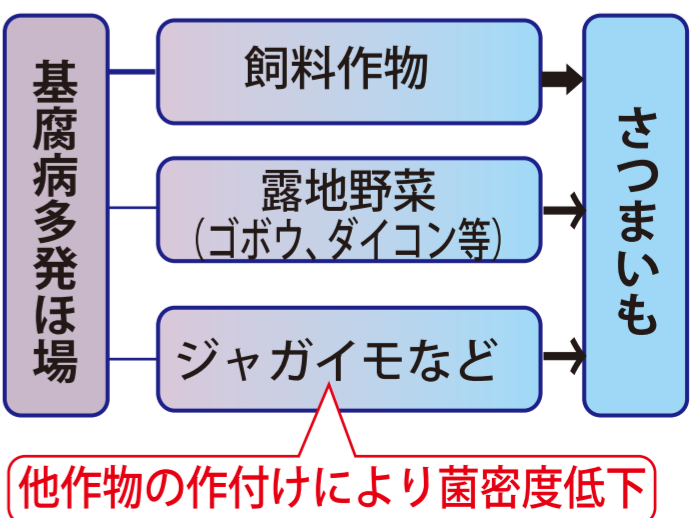
- さつまいも残さの分解促進**
  - 発病残さからの伝染を防ぐため、収穫後は、残さを持ち出し、速やかに耕うん、さらに次作までに複数回耕うんする。



- ほ場周辺のつる等も片付ける。
- ほ場に、発病残さが残っていると土壌消毒の十分な効果が期待できない。

## 10 被害が大きいほ場の場合

- ほ場の菌密度がかなり高まっているため、他作物の作付けを2年程度行い、ほ場の菌密度を低下させる。
- 輪作後は、必ず健全苗を使用する。



※この資料は「イノベーション創出強化研究推進事業(01020C)」の成果を活用しています。  
※ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業を活用しています。

問合せ先：南薩地域振興局農林水産部農政普及課